

北海道の名付け親 知ってますか？



写真提供：
松浦武四郎記念館

文化15年（1818年）2月6日、伊勢国に生まれた松浦竹四郎（武四郎）は28歳から41歳までの間、6度に渡って蝦夷地の調査を行い、蝦夷地の地理や動植物、アイヌ民族の文化を記した紀行本や、蝦夷地（国後島、択捉島を含む）の地図「東西蝦夷山川地理取調図」を出版しました。

明治新政府が成立すると、大久保利通は武四郎を政府に登用するよう働きかけ、武四郎は「蝦夷地開拓御用掛」に任じられました。明治2年（1869年）、開拓使が設置されると、これまでの実績と、誰もが認める蝦夷地通であった武四郎は、「開拓判官」に任命されます。

武四郎は、「蝦夷地」に替わる新しい名称を考えることに携わり、「日高見道」、「北加伊道」、「北海道」、「海東道」、「東北道」、「千島道」の6つの案を上申しました。

政府はその中から「北加伊道」を採用し、「加伊」を「海」に改め、蝦夷地を「北海道」と改称したとされます。

さらに、郡名や国名（今の支庁名）についても、アイヌ語の地名に基づいた提案をおこなっており、武四郎は「北海道の名付け親」と言われています。

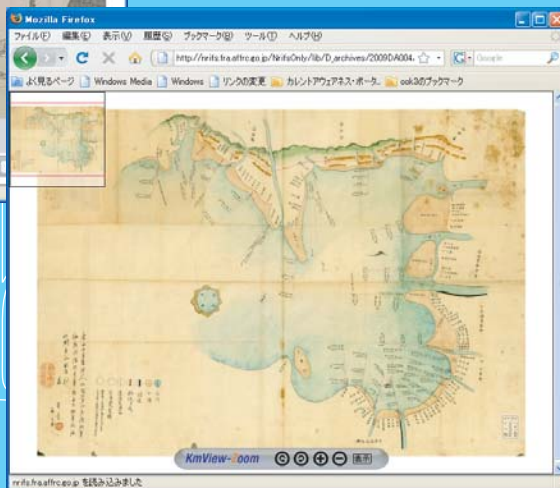
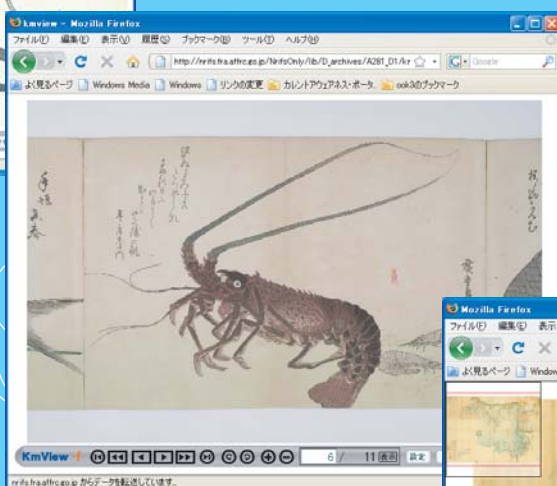
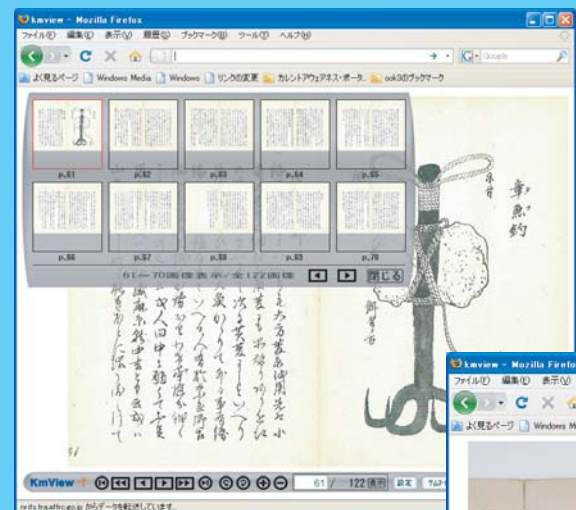
水産総合研究センター 図書資料デジタルアーカイブ

http://nrifs.fra.affrc.go.jp/book/D_archives/

このたび独立行政法人水産総合研究センターでは、「水産総合研究センター図書資料デジタルアーカイブ」を構築し、歴史的資料のインターネットによる公開を開始いたしました。

独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所の前身となる水産庁中央水産研究所は1993（平成5）年に水産庁水産資料館（東京都品川区）より所蔵資料約17万点を移管され現在に至っておりますが、この中には渋沢敬三氏寄贈による祭魚洞文庫（5,700冊）をはじめ多くの稀少な資料が含まれています。

これら貴重な資料を多くの方に見ていただくためにデジタルアーカイブを構築し、その第一弾として約40点の資料をインターネットを通じて公開しました。



デジタルアーカイブに収録されている資料

- ・何羨録
- ・水産図解（上下巻）
- ・東京名物浅草公園水族館案内
- ・少年教育水族館
- ・龍宮怪こはだ後平治
- ・第五回内國勸業博覧会堺水族館図解
- ・第五回内國勸業博覧会附属水族館図（3図）
- ・皇和魚譜
- ・水産調査豫察報告（1～4巻）
- ・さかなつくし
- ・東京湾漁場図：漁場調査報告 第五十二版
- ・東西蝦夷山川地理取調図（21図）
- ・曲寸准里内海深淺浜浦図
- ・嘉永年中幕府にて調 内洋浅深図（江戸湾内）
- ・江戸湾口水深図

独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所図書資料館

〒236-8648 神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
Tel.045-788-7608 Email: ref-nrifs@ml.affrc.go.jp